

中 3 国語



## 【問題】(演習)

出典：『大和物語』

## 現代語訳

筑紫にいた檜垣の御といった人は、たいそうさまざまなことに経験を積み、風流な生活を送って、世を過ごしてきた者であった。長い間このようにして過ごしてきたが、(藤原)純友の乱にあつて、家も焼けてなくなり、道具類もみな取られてしまつて、ひどくみじめな様子になつてしまつた。こんなことになつたとも知らないで、小野好古が、(純友)追討の使としてお下りになつて、檜垣の御の家があつた辺りを探して、「檜垣の御とかいつた人に、なんとかして会いたい。どこに住んでいるのだろう。」とおっしゃると、「この辺りに住んでいましたよ」など、供の人が言つた。「ああ、このような騒ぎで、どうなつてしまつたのだろう。ぜひ訪ねたいものだな。」とおっしゃっていると、白髪の老婆で、水を汲んでいる人が、前を通り過ぎて、みすぼらしい様子の子の家に入った。ある人がいて、「あの人が檜垣の御です」と言つた。たいそう気の毒がられて、呼ばせたが、恥ずかしがつて来ないで、このように言つた。

むばたまの……私の黒髪は白川の水のように白くなり、老いさらばえた日々をおくつております。

とよんだので、気の毒に思つて、着ていた袖を一かさね脱いで与えたのだつた。

## 解答

問 1 (ウ)

問 2 A 〓 野大式 (3行目)

B 〓 檜垣の御 (1行目)

問3 1 ㉒ 5 ㉓

問4 2 ㉒ ひどくみじめな様子になってしまった。

3 ㉒ なんとかして会いたい。

問5 あわれがり (7行目)

問6 檜垣の御 (1行目)

問7 (ウ)

理解を深める

修辞法

枕詞「むばたまの」(黒髪を導き出す枕詞)

掛詞「みづはくむ」(白川の「水」を「汲む」と「瑞歯含む」(非常に年を取る)が掛詞になっている)

現代語訳

私は使用人もいなくなり川で自ら水を汲むような落ちぶれた身分になり、黒髪は白川の水のように白くなり、老いさらばえた様子になってしまったことよ。(こんな老いた姿では、昔の私を知る人には会いたくないのです。)

出典：『うつほ物語』 / 05年 聖心女子大学・改題

## 現代語訳

こうしているうちに翌年になった。この子は、（去年にも）まして大きくなり、聡明で賢い。神仏の生まれ変わりであるので、ただ（分別を身につけた）大人のように成長して、「世間の人に見られると、『誰の子だ。親の（名は）何と言うのか。この辺に住んでいるのだらう』などと言って（住む場所を）探し出そうとするので、自然とこの家を探し出してやってくるに違いない。こうして出発して、誰にも見られたり知られたりすることのないようにしよう。この川にだけ魚がいるというわけでもない」と思って、（堤を）下り、川を渡って、北の方角を目指していき、山に入ってみると、大きな童が土を掘って何かを取り出し、火を焚いて焼いたのを集めて、また大きな木の下に行つて、椎や栗の実などを拾つて、この子（「主人公」）に「何のために、この山に来たのか」と問うので、「魚釣りに来たのだ。母上に食べていただくかと思って」と言うと、「山には魚はいない。それに生きているものを殺すのは罪なことだ。これを拾つて食べなさい。」と教えて、（童が）自分で掘つたり拾つたりしたものを（この子に）与えて、童は姿を消した。この子は、ありがたいと思つて、持つて帰つて、母に食べさせた。

その後は、（川で魚を取る代わりに）山に入つて、（童が）見せて教えてくれた芋や野老を掘り、木の実を拾い葛の根を掘つて（母を）養つた。雪が高く降り積もつた日、芋や野老のあるところも、木の実のあるところも見えないときに、この子は「私が不孝者であるならば、この雪よもつと高く降り積もれ」と言うと、たいそう高く降り積もつた雪は、すぐに降り止んで、太陽がたいそう明るくおだやかに照りだし、先日の童が現われ、このまえと同じように芋や野老を焼いて調理し、（この子に）与えて姿を消してしまつた。

問 1 (1) 年が明けた

(2) 親(の名)は何とのか

(3) 探すので

(4) 見られないよう、知られないようにしよう

(5) 食べていたどころ

(6) 私が親不孝者ならば、この雪よ高く降り積もれ

問 2 I || (イ) II || (オ)

問 3 魚(3・6行目)

問 4 a || (ウ)が(イ)に b || (イ)が(ア)を

問 5 (i) || 食へ (ii) || ぬ

問 6 母のために食物を探しに来た孝行な子が、「私が親孝行者であるなら、雪よ降り止め」と願い、そしてその願いが通じたから。  
〔57字〕

問 7 (エ)

## 【添削課題】

出典：福岡伸一『ふたつの誤り』／06年 筑波大学・改題

## 解答

問1 AⅡ域 BⅡ立案 CⅡ虚心坦懐 DⅡ内実 EⅡ架

問2 精子に小人がいるという仮説が立つと、実際に小人が観察できたと主張する科学者が出てくるように、一旦仮説を持つと、物事がその仮説どおりに見えてしまうということ。

問3

- (i) 「第一種の誤り」は、仮説が誤っていることを指し、「第二種の誤り」は、仮説は正しいが実験方法が誤っていることを指す。
- (ii) どちらの場合も科学者の仮説と違う結果であることには変わらないので、科学者にとって、仮説と実験方法のどちらが誤っていたのかを見極めるのが困難だから。

問4 科学者は、実験結果が仮説通りでない場合、実験方法が間違っていたと考えてしまうため、仮説通りの結果が出るまで実験方法を変え続けようと考えてしまうから。

問5 (オ)





会員番号	
------	--

氏名	
----	--